上田地域もの･こと交換制度

蚕都くらぶ

ま～ゆ

No.16

蚕都くらぶま～ゆ会報

2004年3月10日発行

ま～ゆ連絡先　代表 安井啓子

〒386-0001上田市 上田 2576-16

TEL/FAX　　27-3186

メーリングリスト　ma - yu@ml.melma.com

ホームページ（検索エンジンで 地域通貨 ま～ゆ で開いてください）

ま～ゆな日々

スキー教室

No.7 のび太

次男が通う小学校から保護者宛に、スキー教室講師募集のお知らせが届いた。学校行事にあまり参加できずにいたので、思いきって平日に休んで参加することにした。申し込みをした翌日担任の先生から初心者組の講師をとの連絡をいただいた。

スキー歴は長いのだが、まったくの自己流で指導歴もないと来れば少々不安になってくる。そこで、昨シーズンにスキー板購入のお世話になった、ひろ坊さん(柴田博さん)に指導のコツなどを教えていただこうと連絡したところ、日曜の夜(ちょうど講習前夜)菅平のスキー学校の校長先生が来られるので一緒に夕食でもいかがでしょうか、とのとても嬉しいお誘いをいただき、遠慮もなくお邪魔することにした。

当日の夜は校長先生はじめ指導員の方３名とわたしの計５人で照子夫人の腕によりをかけた とても美味しい手料理をご馳走になった後、いよいよビデオを見ながらの講習会となる。技術論からスキー修学旅行講習での当世学生気質やら御苦労話等々、時間がたつのを忘れ夜中までスキー談義で盛り上がった。

さて翌スキー教室、菅平は前夜５㎝程のパウダースノーが積もり快晴に無風。もうこれ以上の条件はないだろうと思われるほどのゲレンデコンディションに恵まれた。参加保護者５名、学校が依頼した講師２名と先生を含めると、計８名の講師(私はにわか講師)が集まった。28 名という小規模クラスなので１人３～４人の指導という恵まれた条件だ。

開校式の後、いよいよグループごとに講習が始まった。準備体操のあと他のグループは早々にリフト乗り場に向かったのだが、私たち初心者クラス(２班７名)は板を履く前にブーツのまま雪の上でプルーク(ボーゲン)の練習をする。これは前夜柴田さん宅のビデオ講習で教わったことなのだが、靴だけで滑らせて止まる、この繰り返しでスピード制御と止まるための足の押し出し感をつかむ。板に乗ってしまうとなかなかこの感覚が解りづらい。それから今度は転び方の練習に入る。怪我をしないための大事な要素だが、これもビデオの通りに実践。さて、いよいよゲレンデへ。初めてリフトに乗る子供達をリフト係の方にお願いして全員何とか乗ることができた。リフトは氷点下 12℃の突き刺すように冷たい空気の中を走る。真っ青な空、白い根子岳と四阿山の雄大に拡がるすそ野には浅間山の山頂と噴煙も見える。

この絶景は菅平の「売り」でもあり大好きな風景の一つなのだが、うえだ環境市民会議での林一六先生の講義録では菅平のこの景色も自然から見たらズタズタにされたものだという。以前はブナの豊かな森だったそうだ。なんだか複雑な思いでもある。そういえば一昨年の秋に見た志賀高原の岩菅山も忘れられない。滑降競技の開催場所として開発される予定だった岩菅山は植林の不自然な模様や人工的な高圧線や建物がない息をのむような美しい紅葉した山並だった。対して向かいにある焼額山の山全体が引っ掻きキズのようにできたスキーコースは明らかに行き過ぎた開発だと思った。自然からの恵みでもある雪があってこそのスキー場なのだ。開発とは無縁ではない温暖化による雪不足も懸念されている。いつまでも楽しいスキーができるためにも自然との折り合いを忘れず感謝の気持ちを持ち続けたいものだと思う。

さて、いよいよリフト終点だ。途中二度ほどリフトが停止したので降り場で係員さんにご迷惑をかけたようだが、先に降りた子供達の歓声が湧いている。初滑りの時の不安も大いにある中で楽しみも交じった昂る気持ちは大人になっても変わらない。

「じゃあみんな、おじさんの後についてきて！」(先生とは恥ずかしくて言えない)と、初心者向けに緩やかな斜面を下で習ったプルークで滑りはじめたのだが、講習が的確(自画自賛)だったのか、あれれ！みんなどうにか曲がったりして滑れるではないか。中に２人だけどうにもこうにも滑っては転び、転んだきり起きあがれない子がいて、さてさて下までどう行こうかと困っている横を、上から滑り降りてきた上級者組が次々と横をすごいスピードで滑り降りて行く。それを見た２人は、「かっこいい！」と声を上げ、俄然やる気になったようだ。スッと立ち上がると上級者組を追うようにほとんど直滑降で滑りおりて行ってしまうではないか。これには驚いた、まさに「百聞は一見に如かず」だ。

二度目のリフトではその子とペアの乗り合わせになったので、「〇〇君、スキーは本当に初めてかい？おじさんは(くどいようだが先生とは決して言わない)驚いたよ。いきなりあんなにうまく滑れるなんて」というと。「うん、オレお母さんに呑み込みがいいって言われたことあるよ」誉められたことが余程嬉しかったのだろうか、得意げに満面の笑みで返してくれた。天気も上々、きょうは会社を休んできて本当によかったなあと思った。「笑顔を忘れず、根気よく声をかけ続け誉めること」は最も大切な基本だと柴田さんはおっしゃっていた。

俺の生きてきた道、生きた道

おじゃる こと 秦　健　二

おれは昔、「自分は普通に生きている」そう思いながら生きてきた。ただ、変な声が出ることを除いて。

俺は、小さい頃からチックという病気の傾向があった。幼稚園の頃から親は不思議に思い、俺を病院に連れて行った。そのころは、声も気にする程は出ていなかった。　だから、誰もが気にすることなく、俺は普通に生きていた。

そして小５の時、不幸が始まった。きっかけは、「何で、あいつらを無視しろって言うんだよ」と、いじめっ子に発してしまった俺の不満の言葉からだった。

俺は、仲間を無視しろ。という、いじめっ子の言葉が許せなかったのだ。

たちまち標的は、俺へと変わった。いままで仲間だと思っていた連中は、標的になるのを恐れ、俺を裏切った。いじめはひどくなり、無視に続いて暴力も加わってきた。その頃から俺は、変な声が出るようになった。親に自分がいじめを受けていることが言えなかった。自分の子どもが、いじめを受けている。と知ったら、父さん母さんはどんなに悲しむだろう。それが理由である。

俺は親に気づかれないように、日々普通を装い学校へと通った。変な声は、数と声量を増し、兄弟が最初に反応を示した。中学生の兄は特に過敏になり、「うるさい」と俺を怒鳴り喧嘩が絶えなかった。俺は、それが理由で実家を離れ、すぐ近くの祖父母の家に食事の時間を除き、身を置かなければならなくなっていた。だんだん家族が離れていく。そして、いじめが増していく。

俺は、いつしか“死”というものを意識するようになった。死んでしまえば、いじめが終わる。離れていく家族のことも、気にしなくてよくなる。

「俺、死んでもいいや」

その想いから救ってくれた唯一の仲間がいた。

小６の時に参加したキャンプの仲間だった。３泊４日のキャンプだったが、俺の心を救ってくれた。

キャンプの仲間の存在に支えられ、いじめにも耐えた。あと一ヶ月で卒業。その時、担任から衝撃の一言を聞かされた。「おまえが、普段いじめられてるのは知ってるんだぞ」全てが信じられなくなった。じゃあ、なんで助けてくれないんだよ。悔し涙を流しながらもいじめから解放されることを夢見て、小学校を卒業した。不安などなく、『解放』だけを期待した、中学入学。

いじめからは解放されたものの、俺をまたも不幸が襲う。

変な声を巡って、俺の家の中では争いが絶えなかった。　兄弟が、だんだん遠ざかっていく。４人兄弟の俺は、他の３人にあぶり出されて、こんどは兄弟に仲間はずれにされてしまう。家の中ではチックの声も増し、俺のストレスは母へと向かった。母に対する暴力。暴力。暴力。

母の体は、アザだらけになっていた。兄弟からは更に反発を受け、避けられるようになっていた。　ストレスが溜まって、どうしようもなくなっていた俺は、叫ぶに近い変な声を出すようになり、そしてついに言ってはいけないことを母に言ってしまったのだ。

「どうして俺だけ、こんな声の出る体に産んだんだよ」

母は、泣き出してしまった。母が一番辛かったのは知っている。なのに俺は言ってしまった。

暴力も重なり、兄弟に続き母も遠ざかっていく。俺はまた、いたたまれなくなり“死”を考えていた。気がつくと俺は、包丁を手に持っていた。家族に暴力をふるう反面、これ以上家族を苦しめるのなら、死んでしまおう。　でも、行動に移す勇気の無い俺は、リストカットをする癖がついていた。

そのころ学校では？というと、唯一２人の友達に恵まれ何でも話せる仲になっていた。俺の声も自然と受け入れてくれていた。俺はその２人を、あのキャンプへと誘った。

それからは、楽しい日々が続いた。家でのことも彼

に話すことで楽になれた。　そして俺たち３人は、共通の夢を持つようになっていた。あのキャンプのリーダーになること。苦手な勉強も克服した。キャンプリーダーになりたくて。

家族仲は離れていく反面、いじめからは逃れることが出来ていた。

高校をわりと平凡に終わらせ受験を迎える頃、問題になるのは進路とあの声だった。なるべくあの声に差し支えがない学校を希望の中から絞り込み、専門学校へと進んだ。福祉関係に進みたい！という希望の中で、児童か介護か迷った。が、確実に合格したい！そしてあのキャンプリーダーに。という条件の下、介護の学校へと進んだ。

何もが順調に進む。そう信じていた。
あの声のことも承知して受け入れてくれた学校だっただけに、俺のなかでも余裕があった。しかし、不幸は起こった。

２回目の実習を控えた頃、学校側が「今の君の状態だと実習には行かせられない」と打ち出した。「俺の状態って？何」と聞くと、あの声とのこと。

俺だけ省かれたことに納得がいかず、俺は医学的に証明することを試みた。２週間の検査入院。結局、結果を出せずに学校へと戻ってきた。

医学的な証明を見せることは、たくさんの無理を生じさせた。結果も出せなかったのに加え、２週間という時間のロスが、出席単位に響いてしまったのだ。

そして、ある授業のなかで欠席の理由を先生に伝えていると、腹の虫のいどころが悪かったのか？「おまえみたいな気違いを学校が受け入れたことが間違っている」と言ったのだ。俺は、自分の耳を疑った。今のが聞き間違いであることを望んだ。しかし、クラスの仲間が騒ぎ始めたことで、それが現実であることに気づいた。気がつくと俺は、先生の胸ぐらをつかんでいた。泣きながら、こみ上げてくるものをどうしてよいか分からぬまま、そいつの胸ぐらをつかんでいた。

俺のその行動が学校中の問題となり、俺は学校を去ることを決意した。

その後、何度も福祉関係の仕事に就くことを考えた俺は、何度となく面接に行き、何度となく落とされた。俺は、何故チックがあると福祉関係の仕事に就けないのか？ずっと疑問を抱きながら、何年も過ごした。

その度に俺の必要性を自問し、何度も死を考え、リストカットをした。言うまでもなく、そんな俺だけに多量の薬が出されていた。体格も良かった為か、その量は半端でなく、俺の体は薬に犯されていた。献血をすることも禁じられ、ドクターに俺の子どもにさえ影響はある！といわれた。

俺は誰かと共に生きていきたくて、福祉関係の仕事に就きたくても就けず、体の一部も誰かの為に使ってもらえない。どうしようもないダメ人間に思えた。

いろんなことを繰り返し、26 歳の夏を迎えた。俺は、祖父母の経営するアパートに一人で暮らし、食事になると実家へ戻る生活をしていた。ある時、祖父母の家に行った。ちょっと驚かせてやろう！そんな想いが、とんでもない事を聞いてしまったのだ。

それは、アパートの住人が夜中にバイクをふかして帰ってくる。それに対して苦情がきている。しかし、その住人に注意ができない。なぜなら、俺が真夜中 構わずあの声をだしているから。

俺の両親、祖父母、親戚が集まり話していたのだ。俺は、自分がここにいることで、こんなに家族を苦しめていたんだ。ということに気づかされた。これ以上ここにいてはいけない。その思いが、神奈川を去ることを決意させた。

俺は長野を選び、数日後に神奈川を後にした。
菅平の旅館に住み込みで働きだした俺は、次第に家族の大切さが分かるようになった。大嫌いだったおじいちゃんと仲良くなることもできた。父さん母さんが愛しく思えるようにもなった。
しかし、旅館とちょっとトラブルを起こした時に、また言われてしまった。
「おまえみたいな気違い、出てけ」
俺は、また同じ“気違い”,という言葉を使われたことにショックを隠せず、「もういいや」と最後の決断をさせた。

俺には帰る場所がない。もう死のう。
1月 31 日、雪の降る夜だった。菅平のダムのところで俺は、持っていた100錠近くの睡眠薬と安定剤を飲んだ。俺の記憶が遠ざかる。

気がつくと俺は、病院のICU にいた。ベットの横には、泣き顔の母がいた。

「もういいよ。健二、お家に帰ろう」
母は全てを知っているかのようだった。その時俺は、やばい。最悪なことになった。生き残ってしまった。また、家族を苦しめる。

短時間で、そんなことを考えていた。その後、病院をたらい回しになり、神奈川へ帰ることが余儀なくされそうになり、俺は全てのつてをあたった。

その事件の起きる前に俺は、真田町で手話を習っ

た。その先生が、知的障害を持つ人たちのグループホームの世話人をしていた。俺は、そのグループホームに居候させてもらうことになった。そこでの仲間達は、無条件で俺を受け入れてくれた。俺は少しずつ、そこで癒されるようになった。　真田町は、障害を持っている人に理解がある方かもしれない。しかし、それでもまだ俺がそこにいることで、「あぁ、あの人も」という目で見られていた。俺は、自分のチックを認めたくなかった。だから、そう見られることが嫌だった。理由はともあれ、他の仲間もそう見られることは嫌だった。でも、みんなは我慢しているかのようだった。俺は、だんだん世の中が定める“障害,,というものに疑問を抱き始めた。

障害って何だよ？　健常ってなんだよ？

そこの仲間とふれあえばふれあうほど、その疑問は大きくなり、自分のチックを認めるきっかけを作っていった。　俺は、その辺にいる奴らに負けたくなくて、もう一度立ち上がった。まず、ヘルパーの勉強をすることから始め、資格を取った。そして、昔の勘を取り戻し次々と資格取得に力をいれた。

俺は生き残った意味を考えるようになっていた。もし神様がいるのなら、俺は何かをしなくてはならない。その為に生き残らせてくれたんだ。そう勝手に思いこんでいた。

そして俺は、“俺だから出来ること,,“俺にしか出来ないこと,,をしようと考えた。そしてそれが、子どもに伝えていくことだと考えた。

何が正しくて、何が間違っているのか？守っていかなくてはならないのは、何なのか？生きていくことの意味。それを、遊びを通して伝えていけたら…。俺はそれから沢山の人と出会い、子ども達と関わるようになった。そしてNPOを立ち上げることのなった。

そして、まーゆと出会った。

子ども達と関わる中で、子ども達は最初俺の声を不思議に思ったようだ。そして、俺に聞いてくる。俺は「癖だから」と答えていた。しかし、子ども達は納得がいかないようだ。それは、いやみ等ではなく純粋に子どもの心で納得がいかないのである。俺は子ども達との心の距離が近くなるにしたがい、心が癒されていった。そして、ある時、子どもに話した。俺がいじめられて、声がでてくるようになったこと。それがきっかけで、沢山の辛い想いをしたこと。でも、子ども達と出会って癒され自分を認める勇気につながったこと。俺にとっては、勇気の告白だった。

すると、「なぁんだぁ」というあっけない返事。「えっ？」拍子抜けだった。

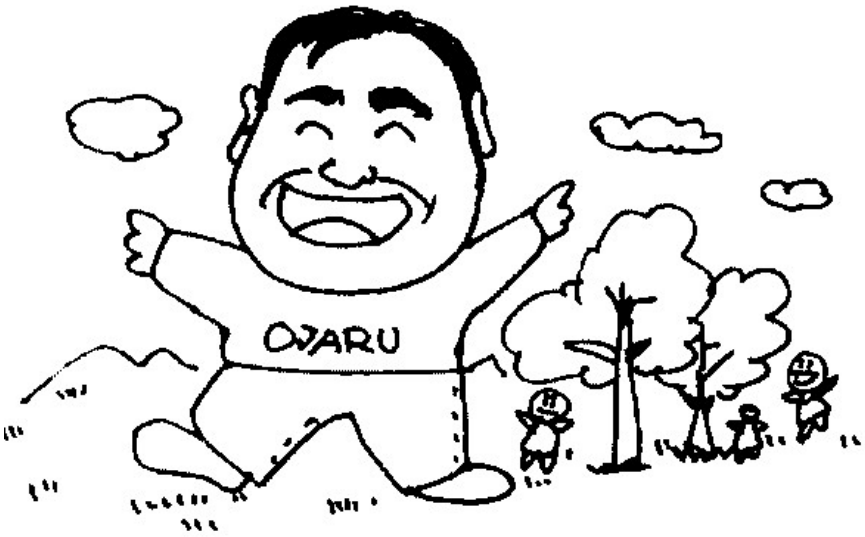
子ども達の中で、「そうなんだ。それが、おじゃるじゃん」そう答えてくれたようだった。俺の中で、怖いものが無くなった。たとえ100人中、99人に認められてなくても、１人が分かってくれていれば良い。そう思えるようになった。子ども達のおかげである。　それが俺の中で大きな自信になった。

そして、まーゆの１月の集まり！一人一言。とのこと。俺は、まーゆの仲間に今まで隠していたチックのことを明かした。すると、「そうなんだ。話してくれて、ありがとう」と言ってもらえた。俺は、今まで隠していたことを恥じた。そして、100人中の１人が、２人か３人。もしかして、それ以上になったことを感じた。　今の俺には、俺を認めてくれる多くの仲間がいる。そして、信じるものがある。そしてまた、守っていきたいものがある。

俺は、強くなれた気がする。多くの人達に支えられて…。その多くの愛の中で、俺はいま家族を想う。傷つけ、苦しめてしまった家族に今、心からお詫びを言いたい。そして、家族の愛に包まれたい。

俺には、今年100歳を超える、おじいちゃんおばあちゃんがいる。俺は、二人が大好きで愛おしい。俺が今、二人に出来ることは、３ヶ月に１回神奈川に帰って元気な顔を見せること。いまはそれしか出来ないが、精一杯のお礼がしたい。そして、父さん母さんや家族に、俺が人として精一杯生きてきたことを、生きていけることを感謝したい。

そして、沢山注いでもらった愛を、俺の愛する子ども達に注いでいきたい。　それがいま俺に出来る、精一杯のことだから。



ま～ゆな人のニックネームのい・わ・れ

いつも暖かな眼差しでま～ゆな人を紹介している ホーおじさんこと №3 黒田弘志さんに今回は登場していただきました。

毎号会報の表紙を飾っているイラストが黒田さんの娘さん作ということをご存知でしょうか。カエルの子はカエル、黒田さんも小学時代から絵を描くのが大の得意。各種のコンクールで賞をとりまくっていたとか。今でも 毎号会報を賑わせているイラストやカットの多くはホーおじさんが「チョコチョコ」と描いていてます。そして、ま～ゆな人の見事な似顔もほとんどが彼の腕によるものです。

鳥取で生まれ育った田舎の天才少年は中・高時代美術部に入って腕を磨き、東京の美大を受験しました。ところが上には上があるもので、補欠の３位という結果になりました。でも例年ここではその５位までは採用していたので「もう合格間違いなし」とお父さんと上京して伯母の家で乾杯。胴上げまでしてもらってお祝いしたのでした。が……その年に限ってハードルが高くて不合格にされてしまったのでした。

学校から帰れば毎日海辺に飛び出していくという少年時代を送り、お父さんが転勤族だったために、常に身近に友達を作りにくい環境だった弘志少年は次第に得意の自分の世界(絵)に入っていったようです。

中学から高校にかけてのころ、ベトナム戦争が新聞・テレビを連日にぎわしていて、黒田さんはアジアに興味を持ち、ホーチミン大統領に関心を抱きました。調べてみるとこのホーチミンという人は実に魅力的で高い理想の下に民衆を愛し、欲を持たず、全人類を愛したヒューマニストだった事を知りました。ま～ゆに参加して「ニックネームを」と聞かれたとき、ふとそのころの記憶が甦って「そうだ、あの大好きなホーチミンにあやかろう」。即座にホーおじさんと決まりました。

ホーおじさんはテレビのディレクターというカッコイイ仕事をしています。15 年前から長野県の民放各局から「あらゆる番組の制作を請け負う」映像製作会社に勤めています。企画を立て、打ち合わせをし、シナリオを作って、現場で指示をして編集。さらにナレーション原稿まで書くという実に多忙な毎日を送っています。長野県をくまなく歩いて、その自然の美しさに魅せられた黒田さんはいずれは、「槍ヶ岳に登りたい」これが夢だそうです。

自然と共に長野県民の人柄に引き込まれてしまったホーおじさんは会報８号に次の文を寄せています。ここには同時にま～ゆへの熱い思いのたけがこめられています。

ま～ゆな人たちが好きだ

なんだか子供銀行みたいだけど人と人とが繋がるから好きなんだ。な～んて軽い気持ちで地域通貨ま～ゆの設立に参加した。そしてコノ１年間にま～ゆで出会った人たち、ま～ゆがなかったら出会う機会がなかった人たち。そんな風に考えると「ま～ゆは人間財産」とつくづく私は思ってしまう。高校生のころから『田舎のべたべたした人間関係』なんて嫌なこった。と極力人付き合いを少なくしてきた。そんな私が今ではま～ゆの人たちを財産と思っている。人間変われば変わるもの。損得じゃ動かないけど、ハートで動く人たち。自分に誇りを持ち他人の誇りを尊重する人たち。長い人生で培った経験や想いを共有しようとする姿勢。こんなま～ゆの人たちと繋がって私は幸せ者。

だから上田が好きになった。人付き合いが楽しくなった。10 日が楽しみになった。棚田が大好きになった。やりたいことがどんどん増えて困った事になった。う～ん、まーゆな人たちがますます好きになった。

ま～ゆな人

No.7　早川　潤さん(通称　のび太)

- 仕　事　　会社員‥‥地元の企業
- 出　身　　上塩尻
- 血液型　　Ｂ型
- 家　族　　妻１人。中学２年生男子。小学五５年生男子。
- 母　親　　82歳 ＜今でも現役､電動自転車で､上田市 内まで一人で出かけて行く＞
- 好きな人　　もちろん奥さん
- 嫌いな人　　特別居ない(その人のいい所を見つけるから)

☹腹が立つこと　　政治（市政‥県政‥国政‥）

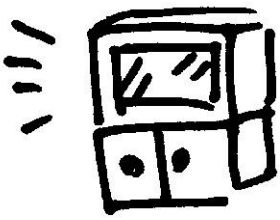
- ま～ゆ入会したきっかけ　ま～ゆの立ち上げの時、仲間にいた。
- ま～ゆでの夢　　☆ 須川のような里山を、地元の塩尻に作り、地元を活性化させたい。
  ☆ ま～ゆの呼びかけが増えること。（プロジェクト的なこと）
  ☆ 飲食等で、交流の場を多く持つ。
- 出来ること　　自転車のパンク修理（出張も可能）
- 上田市政に一言　　上田市民が、上田市政に対しての意識が、少ない。
  税金の見直し＜配分の仕方の＞

冬はスキー、夏は、山歩き、自然に親しむのがお好きなのび太さん。**のび太**とつけたのは、ご存知“どらえもん”の のび太から頂いたとのこと。「飲んでのびてしまうからのび太では？」とわたしは思いましたが……。

おっとりした４０代で、気さくに話せる方。
内面に色々な考えを秘めて居る方のように、感じました。
これからの、自身の夢は、トレッキングスキーをすることと、自転車レーンのあるドイツへいくことだとか‥本当に自転車大好きな、のび太さんでした。

追伸　　聞く側の私と、聞かれる側ののび太さんと、ドイツへ行きたい夢が一緒になり、ついつい話が盛り上がり、お酒の飲める量を聞くのを忘れました。

（コボル記）



ま～ゆな人

偉大なる男のおばさん 都々平（どどへい） さん

№50 前田光俊さん

このま～ゆ会報の発行責任者である都々平さん。ちょっと広いおでこに人なつこい目が印象的。自称「男のおばさん」です。なるほど都々平さんは世間話大好き、だから都々平さん宅はいつも誰かが立ち寄って話の花が咲く。

都々平さんは料理つくり大好き。ま～ゆの一品持ち寄り会なんて時は前日から大張り切り、でも張り切りすぎて当日に寝込んでしまうことも・・・。

都々平さんの半生は病気との戦いでした。昭和16年上田市生まれ。小学校2年の頃から喘息（ぜんそく）がひどくなり身体が弱くて掃除や体育は見学組。運動会も出場できなかったそうです。中学も高校も自宅で寝ている生活が続きました。

外の世界から切り離された前田少年の寂しさを紛らわせてくれたのはなんとラジオでした。当時はまだテレビの出現していない時代のこと、ラジオは最大の娯楽で華やかでした。NHK 第二の学校放送を布団の中で聞いて、休んでいる勉強を補っていたそうです。朝から晩までラジオに聞き入る前田少年。ラジオはいつの間にか人生の学校になってしまいました。都々平さんの好奇心と問題意識を培ったのはラジオだったのか、テレビだったらこうはいかなかったかも・・・と妙なところに納得。

「おもしろいもの見ますか？」と案内されたのは年期もののタンス。引き出しを開けるとカセットテープがぎっしり詰まっている。その数およそ600本！すべてラジオの同録。内訳は大好きな落語が300本、日曜喫茶室200本、NHK 文化講演会100本、私撰歌謡集50本。正に戦後ラジオ文化の貴重なライブラリー。一巻ずつに放送日や題名、内容が克明に記されています。驚く私。得意げな都々平さん。ラジオに寄せる都々平さんの深い愛情を見たようです。

この度、商売を閉じた都々平さんは店跡をみんなが自由に使える場所につくり直します。もちろんラジオライブラリーも聞けて、一品持ち寄って世間話を楽しんで・・・都々平さんの夢は広がります。なんだか今頃になって都々平さんの青春時代が来たようです。

２人のお孫さんに恵まれて「この子たちの為に不安の無い時代をつくりたい」と決意。ひょうひょうとして辛辣、ひ弱なのに根性は溌剌、疲れやすいのに行動的・・・相反するものが見事に融合している都々平さんは「偉大なる男のおばさん」です。

（ホーおじさん記）

ま～ゆ会員 自己紹介

名前	№94 おじゃる	岩下美鈴
出身地	神奈川県川崎市(大都会)	中野市
血液型	A	A
性格	●血管と神経だけは細い(Dr のお墨付き) ●みやびなお子ちゃま	明るくて元気…実は内気
好きな食べ物	まだ見ぬ彼女が作ってくれる料理	●ギョーザ ●パフェ
嫌いな食べ物	虫系(イナゴ･蜂の子・ザザ虫)	●セロリ●ゆり根●みょうが
好きな人	優しさを持つ雅な人	●優しい人●前向きな人
嫌いな人	他人を傷つける人	大きな声で怒る人
好きなもの	●ラジオ(音楽) ●子供の笑顔 ●家族 ●仲間	●寝ること ●友達との雑談 ●ジェットコースター ●ＵＦＯキャッチャー
嫌いなもの	●悪口 ●暴力 ●偏屈な大人	●こわい話し ●お化け屋敷
私の夢	●プロジェクトＸに出ること (間違っても人生波乱万丈には出たくない) ●公的書類がおじゃるのサインで済むこと ●大切な人たちを傷つけずに生きていきたい	たくさん旅をしたい

名前	№87 居鶴貞美	萩原 拓
出身地	青木村	埼玉
血液型	O	A
性格	●内向的 ●短気	小心者
好きな食べ物	魚介類	ラーメン
嫌いな食べ物	生卵	特になし
好きな人	森永卓郎	坂本龍馬
嫌いな人	うそつき	テレビのコメンテーター
好きなもの	●旅 ●コミュニュティビジネスの追求	●音楽 ●自然 ●寝ること
嫌いなもの	●ゴルフ ●タバコ	機械
私の夢	ユートピアの創造 (ダチョウ牧場･コミュニティレストランの経営)	きれいな島で、食う･ねる･遊ぶの生活

名前	No.4 黒田敏子	No.24 我孫子元直
出身地	長野県	川崎市
血液型	B＋	A
性格	●おしゃべり・朗らか ●短気かつ情緒的	変
好きな食べ物	●ラーメン　●うどん ●カレー	●肉 ●刺身 ●酒
嫌いな食べ物	●なまこ ●くさや	●にんじん ●芋･薯 ●カボチャ
好きな人	サッパリした人	妻
嫌いな人	しつこい人	恐い人
好きなもの	●さんま御殿 ●テレビタックル	自分の足のにおい
嫌いなもの	マニアックな事	人のおなら
私の夢	楽して太らず、温泉につかって、 うまいものを食べること	水道修理専業で独立したい…が無理

名前	No.133 深澤友実	No.33 我孫子文子
出身地	静岡県	上田市
血液型	O	A
性格	●のんびりしている ●頑固	明るく、活発
好きな食べ物	●うどん ●親子丼 ●煮物 ●クレープ	●かぼちゃの煮物 ●干しいも
嫌いな食べ物	●なっとう ●辛いもの ●レバー ●マヨネーズ	牛乳(ストレート飲み)
好きな人	いっぱいいます	前向きに生きている人
嫌いな人	言ってることと やってることが違う人	言うだけで動かない人
好きなもの	●音楽(トロンボーンを吹くこと) ●子どもと遊ぶ ●海で遊ぶ ●散歩	体を動かすこと スポーツ
嫌いなもの	部屋にずっといること	
私の夢	●児童関係の仕事につくこと ●トロンボーンをこれからもずっと続けられたらいいな	上田市の小中学校に給食室を作り、地産地消の農作物を子供たちに食べてもらうこと

※ 毎号“ま～ゆな人”を紹介してきましたが、140 名からの会員に くまなく登場していただくのは困難です。そこで 14 号で好評だった(かな？)自己紹介を毎号掲載して、それぞれの一面を知っていただこうと思いました。記載の用紙をま～ゆ市でお渡ししますから、遠慮しないで記入してください。また、メールや FAX でも都々平宛に送ってくださるようよろしくお願いします。

（シリーズ）私からあなたへ

ハコさんの なぜ？・どうして？

今上田市ではすべてのゴミ袋が有料化されようとしています。まーゆの仲間,竹内みさおさんの陳情も不採択になってしまいとても残念です。,議会議事録を読んでも焦点がづれていて納得できないのです。

ゴミを減らすことが袋の有料化とどこでつながるのでしょう？

言うまでも無く生ゴミは堆肥に,資源,再生できるものは全て分別し残るは,プラスチック系のものです。これは消費者である私達では減らすことの出来ないものです。分別をする程減りません。企業,商店が今の形態を大きく変えそれに私達消費者がきちんと納得し,マイ,バッグ、空瓶持参での買い物という段階まで行けばとのことでしょう。

透明袋なら可。ということで売り手はすぐレジ袋を透明に変えました。これも努力です。これも駄目ということはまたゴミが増えることです。何かおかしくないですか？努力したものをどうして認めないでゴミにさせるの?

保険料はグンと上がり年金はグンと下がっています。

無駄を省き節約を美徳として暮らす善良なる市民に無駄な出費を何故強いるのでしょう？

どうしても財源が必要ならいくらでもそれに代わる方法があります。

２月１日の広報には市の財政が家計簿にたとえられて説明されています。無駄が無いか,余計な所に出費したないかよくよく見直して欲しいです。皆,環境のことも考えて工夫しています。私達の切実な声はどうすれば届くのでしょう？

81 番 木下ハル子

料理隊長のてる坊さんの手際のよさ,アイデアの豊かさ,諸々に感服しています。
次号のまな板に載ってください。

名前	No.138 大久保裕子	No.2 ごんべえ
出身地	上田市	上田市
血液型	A	A
性格	●明るい ●おせっかい ●優柔不断	理想主義者（これは現実主義者なのです）
好きな食べ物	●湯ドーフ ●新鮮な魚	●中華料理 ●和食 ●日本酒
嫌いな食べ物	特になし	●甘いもの ●ナイフとフォークの料理
好きな人	●誠実な人 ●包容力のある人	●自分の考えをはっきり言う人 ●前向きな人
嫌いな人	●うそつきな人 ●薄っぺらな人	●自己中心な人 ●みえを張る人
好きなもの	好きな言葉「人の為に謀りて忠ならざるか」	●クラシック音楽(特にオペラ) ●おしゃべり ●好きな言葉「唇に歌を、心に太陽を」
嫌いなもの	カラオケ	演歌(暗くてみじめ)
私の夢	ヨーロッパ一人旅	

ま～ゆで あんなモノ・コト こんなモノ・コト お助け あぶりだし

○ 自転車をいただきました

都々平さんが　ササキさんから 1000 ま～ゆで
(ドロボーに盗られて困っていました)

○ ネットワークハウス縁舎オープン記念で イベントのお手伝いをしてもらいました

柴田さん、安井さん、藤倉さん、三井さんから
一人あたり 1000 ま～ゆで
(本当に助かりました！ありがとうございました。そのほか当日来てくださった方々ありがとうございました。)

○ 葬儀の手伝いをしていただきました

ごんべえさんが　我孫子さんと黒田さんから
2000 ま～ゆで
(母の葬儀の時です。みんなびっくりしていました。ありがとうございました)

○ 我が家の庭木の剪定をしていただきました

安井さんが　鬼太郎さん・ニシちゃん・孫の手さんから 2000～3000 ま～ゆで
(おかげ様ですっきりした庭になりました)

○ 町歩きの案内をしていただきました

斉藤さんが　ヒデさんから 100 ま～ゆで
(中心市街地に残る擬洋風建物を勉強させていただきました)

○ 名刺を作っていただきました

●安井さんが　都々平さんから 500 ま～ゆで
(大変重宝しています)
●たけちゃんが　都々平さんから 1000 ま～ゆで
●ごんべえさんが　都々平さんから 500 ま～ゆで

○ ねずみ大根をいただきました

斉藤さんが　てる坊さんから 50 ま～ゆで

○ 犬の散歩をしていただきました

ごんべえさんが　早川さんから 500 ま～ゆで
(出張の時助かｒりｍまｓし

○ ストリートオルガンを貸していただきました

● のび太さんが　さなぎ(ま～ゆ事務局)から
5000 ま～ゆで
● よっちゃんが　さなぎ(ま～ゆ事務局)から
5000 ま～ゆで
● ターボさんが　さなぎ(ま～ゆ事務局)から
5000 ま～ゆで
● 孫の手さんが　さなぎ(ま～ゆ事務局)から
3000 ま～ゆで(短時間)
● みっちゃんが　さなぎ(ま～ゆ事務局)から
7000 ま～ゆで (宮崎さんの実演つき)
(ネットワークハウス縁舎オープン記念イベントで使わせていただきました。とても楽しい雰囲気作りができてよかったです。)

○ りんごのタルトをいただきました

●たけちゃんが　藤倉さんから 100 ま～ゆで
●みっちゃんが　藤倉さんから 100 ま～ゆで
(とってもおいしかったです！)

○ FAX 用紙をいただきました

●いじこさんが　安井さんから 200 ま～ゆで
●たけちゃんが　安井さんから 200 ま～ゆで

○ 写真のフィルムをいただきました

斉藤さんが　都々平さんから 100 ま～ゆで

ま～ゆで あんなモノ・コト こんなモノ・コト お助け あぶりだし

○ 自転車をいただきました

都々平さんが　ササキさんから 1000 ま～ゆで
(ドロボーに盗られて困っていました)

○ ネットワークハウス縁舎オープン記念で イベントのお手伝いをしてもらいました

柴田さん、安井さん、藤倉さん、三井さんから
一人あたり 1000 ま～ゆで
(本当に助かりました！ありがとうございました。そのほか当日来てくださった方々ありがとうございました。)

○ 葬儀の手伝いをしていただきました

ごんべえさんが　我孫子さんと黒田さんから
2000 ま～ゆで
(母の葬儀の時です。みんなびっくりしていました。ありがとうございました)

○ 我が家の庭木の剪定をしていただきました

安井さんが　鬼太郎さん・ニシちゃん・孫の手さんから 2000～3000 ま～ゆで
(おかげ様ですっきりした庭になりました)

○ 町歩きの案内をしていただきました

斉藤さんが　ヒデさんから 100 ま～ゆで
(中心市街地に残る擬洋風建物を勉強させていただきました)

○ 名刺を作っていただきました

●安井さんが　都々平さんから 500 ま～ゆで
(大変重宝しています)
●たけちゃんが　都々平さんから 1000 ま～ゆで
●ごんべえさんが　都々平さんから 500 ま～ゆで

○ ねずみ大根をいただきました

斉藤さんが　てる坊さんから 50 ま～ゆで

○ 犬の散歩をしていただきました

ごんべえさんが　早川さんから 500 ま～ゆで
(出張の時助かｒりｍまｓし

○ ストリートオルガンを貸していただきました

● のび太さんが　さなぎ(ま～ゆ事務局)から
5000 ま～ゆで
● よっちゃんが　さなぎ(ま～ゆ事務局)から
5000 ま～ゆで
● ターボさんが　さなぎ(ま～ゆ事務局)から
5000 ま～ゆで
● 孫の手さんが　さなぎ(ま～ゆ事務局)から
3000 ま～ゆで(短時間)
● みっちゃんが　さなぎ(ま～ゆ事務局)から
7000 ま～ゆで (宮崎さんの実演つき)
(ネットワークハウス縁舎オープン記念イベントで使わせていただきました。とても楽しい雰囲気作りができてよかったです。)

○ りんごのタルトをいただきました

●たけちゃんが　藤倉さんから 100 ま～ゆで
●みっちゃんが　藤倉さんから 100 ま～ゆで
(とってもおいしかったです！)

○ FAX 用紙をいただきました

●いじこさんが　安井さんから 200 ま～ゆで
●たけちゃんが　安井さんから 200 ま～ゆで

○ 写真のフィルムをいただきました

斉藤さんが　都々平さんから 100 ま～ゆで

○平塚らいてう展のお手伝いをして
いただきました
杉山洋子さんがヒデさんから 1,500 ま～ゆで
（きれいにレイアウトできました）

○ 軽トラックを貸して頂きました
コボルさんが　ごんべえさんから
（沢山の荷物が一度で運べて助かりました）

○ 花月文庫で有名な飯島保作(ほさく)の
読みを教えていただきました
ヒデさんが　いじこさんから 500 ま～ゆで
（まち歩きで説明するので、助かりました）

○ 写真を撮っていただきました
都々平さんが ホーおじさんと斉藤さんから 1500 ま～ゆで
（信州環境フェアの会場まで出向いてもらって、晴れがましいシーンを残していただいて感謝！）

○ おいしいおにぎりをいただきました
古見さんが いじこさんから 100 ま～ゆで

○ おつまみをいただきました
いじこさんが　よっちゃんから 1500 ま～ゆで
（なんと 15 袋も）

○ ケーキとお茶をいただきました
いじこさんが　フミさんから 100 ま～ゆで
（おいしかったよー）

○アジサイの鉢をいただきました
ミーすけさんが コボルさんから 500 ま～ゆで

○鉢植えのウチョウランをいただきました
藤倉さん外８人が
孫の手さん(知り合い)から各 500 ま～ゆで
（可憐な花にうっとり！）

○ 屋根用塗料についてアドバイスを
いただきました
ひろ坊さんが　ヒデさんから 500 ま～ゆで

○自転車の具合をみてもらいました。
コボルさんが のび太さんから 500 ま～ゆで
(買って間がないのに、すぐタイヤの空気がなくなってしまい何度入れてもおかしいので、出張してみてもらいました。おまじないでもしたみたい。あれから４ヶ月タイヤの空気はそのままです。)

○ はく製を作る人を紹介して
いただきました
都々平さんが ひろ坊さんから 200 ま～ゆで
(インターネットで検索しても分からなかったので、「もしや?」と ML に発信したら、見事。ま～ゆって万能ですね)

○大きな味噌樽の内蓋を作って
いただきました
三井さんが 孫の手さんから
（おいしいお味噌を楽しみにしています）

飲み会に車で送っていただきました
古見さんが　ともちゃんから 500 ま～ゆで
古見さんが　いじこさんから 500 ま～ゆで
（おかげでゆっくり飲めました）
（安心して飲めました またヨロシクネ）

○ま～ゆの名札を作っていただきました
コボルさんとハコさんとタケちゃんが
都々平さんからそれぞれ 500 ま～ゆで

NPO 遊び塾決算の監査をしていただきました
おじゃるさんが 都々平さんから 1000 ま～ゆで
（決算書の作成もお願いしました）

○ 山菜取りの案内をしていただきました
ミーすけさんと孫の手さんが
くまさんからそれぞれ 200 ま～ゆで
（山菜のてんぷらをそこで揚げて食べました
おいしかった）

○肩と腰をマッサージしていただきました
都々平さんが　ごんべえさんから 2000 ま～ゆで
(コリコリになっていたのを揉みほぐしてもらってああ、気持ちいい！)

○ **野菜**をいただきました

いじこさんが　てる坊さんから 50 ま～ゆで

○ **パソコン修理**をしてただきました

ごんべえさんが　ひらりんさんから
500 ま～ゆで

○ **しいたけの原木**(１０本)をいただきました

斉藤さんが　くまさんから 2000 ま～ゆで

○ **戸の鍵を修繕**してただきました

コボルさんが　孫の手さんから
3000 ま～ゆで

○ ナス・キュウリをいただきました

安井さんが　ひろ坊さんから 100 ま～ゆで
(須川の畑で採れたもの
大変おいしく頂きました)

○ **包丁の柄を直して**いただきました

たまちゃんが　孫の手さんから 1000 ま～ゆで
(使いこなして愛着のある包丁が見事に甦って「うれしい」)

○ **梅干**をいただきました

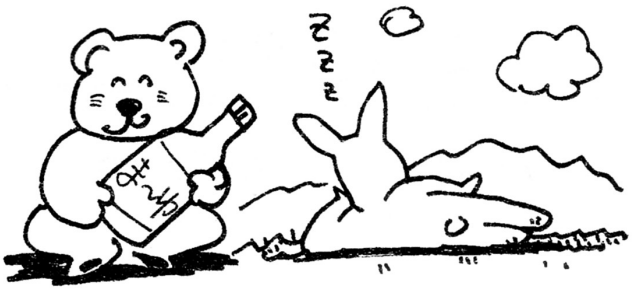
●安井さんが　よっちゃんから 250 ま～ゆで
(すごーくおいしかった)
●たけちゃんが　宮原さんから 200 ま～ゆで

○ (松本まで)**送迎**をしていただきました

いじこさんが　みっちゃんから 1000 ま～ゆで

○ **小豆**(300ｇ)をいただきました

都々平さんが　トットちゃんから 300 ま～ゆで
(あんこを煮ておやきを作りました)



○ ちゃんこを食べる会で
大鍋を貸していただきました

さなぎ(ま～ゆ事務局)が　松井さんから
500 ま～ゆで
(40 人の胃袋を満足させていただきました)

編集後記

今年はとても過ごしやすい冬でしたが、３月に入ってからは仇でも討たれたかのように寒さの厳しい日が続きました。風邪に悩まされた会員も少なくなかったのではないでしょうか。

さあ、いよいよ春です。お助けが活発になりそうです。頼みたいこと･お願いがあったらあつかましく聞いてみましょう。それを待っている会員はきっとあります。そして喜んで応じてくれるはずです。

お助け一覧表やお助けあぶり出しを参考にして。

今号に、おじゃること秦 健二さんが思い切って自分のことを書いてくれました。お互いを知ることがま～ゆの原点かもしれません。地域通貨の理念を理解する上でも、会員同士の心の交流は欠かせないもののように思われます。

そのためにも、この会報をもっともっと活かしていきたいと思います。

都々平

4月のま～ゆ市

会場を 縁 舎 に移して
午後2時から開きます。

うまくいったら長福寺の花見ができるかもしれません
テーマは未定 希望があったら
世話人にお伝えください

5月のま～ゆ市

会場はいつものように中央公民館に戻って
午後7時から開きます。

桜前線 追っかけ ミステリーバスツアー 参加者募集

4月18日(日) 花見の行く先は？？？

運転手孫の手さんがその日に気の向くほうにハンドルを切ります。
さーて、どこへ連れてってもらえるでしょう？。
※ 費用等詳細は後日決めます。

問合せ先　　都々平 ☎ 27-1230